

石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム (IJSP) を通じた国際交流の推進

(財)石川県国際交流協会 石川県日本語・日本文化研修センター事務長 大都 茂信

IJSP研修概要

石川県では、本県の文化的資源を活用して、地域における国際交流、国際理解の推進を図るとともに、研修生たちが本県の応援団になっていただくことを目的に、1987年度から、世界各国の大学生等のグループを対象に、ホームステイをしながら日本語と日本文化を研修・体験する石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム (IJSP) を実施しており、これまで (2011年度末) 22か国、49グループ、3,581人の研修生を受け入れています。

IJSPの具体的事業実施状況

IJSPの特徴は、ホームステイをしながら日本語と日本文化を研修・体験するところにあります。

ここでは、プログラムの内容についてご紹介します。

なお、制度の詳細については、下記ホームページに説明が掲載されていますので、ご覧ください。
<http://www.ifie.or.jp/ijsc/ijsp/index.html>

①日本語研修

授業では、通常の日本語授業に加えて、研修生が石川県で過ごす中で感じたことや疑問に思ったことをテーマに各自の日本語能力に応じたプレゼンテーションを行っています。



授業風景

研修生は、町中に出て自分の日本語能力を駆使して情報集めを行ったりもします。こうする

ことで、研修生の日本語の実践能力を高め、日本人との交流もしながら、より深く日本を知ることができます。

また、研修期間中に地元の大学や小学校を訪問して、自国の社会状況や伝統文化等を紹介したり、ゲームなどで交流を深めています。



大学・小学校訪問

②文化研修・体験と研修旅行

石川県は戦災に遭っていませんので、江戸時代からの古い街並みや多くの伝統文化が残っています。兼六園の散策のほか、週2日程度の午後に伝統文化の体験も行います。

金箔の本場金沢ならではの金箔貼り体験では、まず絵柄を切り抜いたシールを銘々皿に貼ったうえで、その切り抜き部分に、漆に似てはいますがかぶれる心配のない特殊な接着材を塗ります。

次に、シールをはがしてその上に金箔を貼り付け、余分な金箔を取り除き完成です。

金箔はとても薄いので失敗しやすく、みんな息を殺して金箔貼りに挑戦していますが、うまく貼れると感慨もひとしおです。

和太鼓体験では種々の太鼓を見学し、プロの和太鼓奏者の演奏に触れると同時に、自らの演奏体験も行います。演奏は、極めて単純なリズムから徐々に複雑なリズムに挑戦していきます。

初めは戸惑っていた研修生も、太鼓を叩くうちにどんどん気分が盛り上がり、お祭りに参加して

いるような気持ちになります。

このほかに、茶道、華道、弓道、和菓子作り、陶芸などの石川県が誇る伝統文化の数々を体験してもらいます。



和太鼓演奏体験

さらに、IJSPでは研修旅行を実施しています。能登や加賀の里山里海の景観を堪能し、温泉体験や地域の風土に触れることができるミニ旅行です。研修生は、日頃の厳しい日本語授業から解放され、リラックスした楽しい一時を過ごします。



能登研修旅行

国籍の異なるグループが、日本語を共通の言語として交流を深めるのを見てみると、IJSPならではのうれしい気持ちになります。

研修生の多くがこの研修旅行を特によかったことの一つに選んでいます。ホームシックになっているのではと思われる研修生も、この日を境に元気を取り戻すことができます。

③ホームステイ

研修期間中は全てホームステイで過ごします。ホームステイでは、家族の一員として寝食をともにし、日常生活を通した本物の日本を体験します。

ホームステイでは日本語だけで過ごしますので日本語の習得にとっても効果があります。あいさつ程度しか話せなかった研修生が、家族となんとか日常会話ができるようになりますからすごいものです。

ホームステイは、ホストファミリーにとっても国際交流の大きな体験でもあります。

ホストファミリーの中には、子どもに外国のことを知ってもらいたいといった理由や、子どもが使っていた部屋が空いたので研修生と交流してみ

たいといった理由から応募していただいた家庭もあります。

ホームステイの後には、ホストファミリーからは、研修生を通じて外国の生活を知ることができたとか、家族が増え研修生が本当の子どものように思えてきたなどといった感激の声が寄せられています。

また、研修生も、初めは見ず知らずの家で暮らすことがとても不安だったようですが、しばらくするうちにホストファミリーの真心に触れ、このまま居たい、帰りたくないと言うほど親しくなり、



ホームステイ

帰国後もメールでホストファミリーと近況を報告しあっている研修生も多いようです。

このプログラムを通じて、研修生と最も強い絆を持つことができるのはホストファミリーだと感じます。

④そのほかに

本県では、留学や研修などで本県に暮らし、帰国後も本県に愛着を持ち続けている外国人の皆さんに参加いただく「いしかわ同窓会」を設けています。

IJSPの研修生の皆さんにもこの同窓会に入っただいており、多言語情報誌「石川エクスプレス」など本県からのEメールによる情報提供や会員同士の情報交換を行うネットワークを構築しています。

今後の課題

研修生は日本語の習得に忙しく、せっかくの文化体験がおろそかになってしまうことがあります。そうならないために、研修生には事前に体験内容についての背景や考え方、心構えなどを知っておいてもらうよう、関連資料の作成や事前説明など文化体験の充実に努めてまいりたいと思っています。